

魚沼圏域重点取組方針進行管理表

重点課題	地域医療連携ネットワーク
------	--------------

I 施策の展開

目標	数値目標 (ベースライン)	目標(値) 【年度】	実績数値又は施策の進捗状 況(実績)【年度】
1 圏域の医療機関の参加率について、病院100%・診療所60%を目指します。	・ 参加医療機関の割合の増加 病院:85.7% 診療所:50.0% (H26.3月末)	【H29】 病院100% 【H29】 診療所60%	【H28】 病院92.9% 【H28】 診療所56.1%
2 ネットワーク本稼働後、多くの地域住民の方々にご理解をいただき、魚沼圏域の住民70%以上の参加を目指し診療データを登録します。	・ 圏域人口に対する参加者数の割合の増加 2.1%(3,691人) (H26.3月末)	【H26】 10,000人 【H27】 20,000人 【H28】 30,000人 【H29】 40,000人 【H30】 50,000人	【H28】 10.3%(17,005人) (H29.4.1現在推計人口 164,765人)

施策 (県・市町村)	<p>【施策展開の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 魚沼圏域の地域医療連携ネットワーク「うおぬま・米ねっと」を有効に活用するため、ネットワークの実施主体であるNPO法人魚沼地域医療連携ネットワーク協議会(以下「米ねっと事務局」という。)は、圏域内住民のネットワーク加入者の増加、圏域内の医療機関の参加数の増加に向けた取組を促進するとともに、関係機関は米ねっと事務局の取組を円滑に進めるために協力した。 ○ 既参加医療機関の医師等にうおぬま・米ねっとに関する見識を更に深めてもらい、担当する患者や未参加医療機関に対して米ねっとへの加入・参加を促す取組が有効と考えられることから、米ねっとの利用促進に関する取組も進行管理表に併せて記載した。
	<p>【年度中に行った取組】</p> <p>1 住民参加率向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 米ねっと事務局は、年間を通じて地域住民からの加入申込を受付した。平成28年度は、魚沼基幹病院、十日町病院、南魚沼市民病院、魚沼市立小出病院、上村病院に受付窓口を設け、職員及び臨時職員を配置して対応した(加入促進キャンペーン)。 ○ 米ねっと事務局は、地域で開催された各種イベントに出張し、加入申込を受付した(十日町市産業フェスタ、津南町健康まつりなど)。また、介護保険施設(特養・老健)に出張して施設利用者の加入申込を受付した。 ○ 病院・診療所では、医師が診療中に米ねっとの画面等を患者に示しながら、米ねっとのメリット等を説明し、患者に加入を働きかけた。 ○ 県基幹病院整備室は、米ねっと事務局と連携し、8月～9月の加入促進キャンペーンの一環として、加入申込受付の折り込みチラシを魚沼圏域5市町の市町報で全戸配布した。 ○ 県基幹病院整備室は、魚沼圏域の医療再編の情報を伝える「うおぬま通信 第5号」(平成29年3月発行・魚沼圏域5市町に全戸配布)で、米ねっとの加入申込受付の記事を掲載した。 ○ 魚沼・南魚沼・十日町の健康福祉(環境)部は、所属ホームページでの米ねっとの周知や平成27年度に作成した加入促進チラシなどの広報資材を部内に配架したり、各種イベント(みんなで作る医療・福祉フォーラム(十日町地域)など)で配布するなどの取組を行った。 ○ 魚沼・健康福祉部は、加入促進キャンペーンに合わせてホームページを修正し、利用申込書の入手を容易にするため、申込書のPDFファイルを掲載した。 ○ 市町は、医療担当課等が窓口となり、米ねっとの加入申込を受付した。

	<p>2 医療機関参加率向上のための取組(既参加医療機関の利用促進の取組を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療機関が新規に参加する際に負担する初期費用が高額(約70万円)であることがネックとなり、米ねっと事務局では未参加医療機関への勧誘活動に踏み込めなかった。 ○ 米ねっと事務局は、米ねっとの加入者の状況や事務局の取組内容の情報提供の一環として「米ねっと通信」を6月に発行し、参加医療機関に配布した。 ○ 米ねっと事務局は、米ねっとの活用に向けた講習会(講師:中島脳外科内科医院 中島拓氏)を基幹病院において開催した。 ○ 米ねっと事務局は、米ねっとの活用マニュアルを作成し、年度末に全参加医療機関に配布した。 <p>3 その他の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 米ねっと事務局は、推進チームを立ち上げ、現在のシステム改善や医師等普及促進に向けた検討を行った。
--	--

II 評価等

<p>施策に対する 分析・評価</p>	<p>1 住民参加率向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 米ねっとの加入者は前年度と比較して約4,000人増加し、圏域の人口に対する加入率も10%を超えたが、目標値には届かない状況である。 ○ 住民広報チラシを全戸配布(約60,000戸)したが、キャンペーン期間中のチラシ利用申込者数は209名と効果は限定的であった。 ○ 主治医が診療の際に患者に対して加入を勧めるのが最も効果的との意見が多いが、当圏域に赴任して間もない医師には、米ねっと活用のメリットを学ぶ機会が少ないこと等による理解の不足が見られ、患者への働きかけを行う医師は一部に留まっている。 <p>2 医療機関参加率向上のための取組(既参加医療機関の利用促進の取組を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成28年度は、病院・診療所の新規参加はなかった。 ○ 医療機関の参加率は上昇しているものの、圏域内の医療機関の休止や廃止に伴う母数の減少が要因となっている。 ○ 米ねっとの操作研修を受けておらず端末の操作に不慣れな医師も見られ、活用が一部の医師に留まっている。特に病院においては、医師のほかクラーク等の利用も含めて端末の操作に習熟した者を増やす必要がある。
-------------------------	---

<p>課題</p>	<p>1 住民参加率向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 米ねっと自体の地域住民への認知度が低い。また、存在・名前だけは知っていても、自分にとって必要性を感じない方が多い。 ○ 加入者の地域間格差は解消していない。 <p>2 医療機関参加率向上のための取組(既参加医療機関の利用促進の取組を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 初期費用が高額である。 ○ 医療機関、医師によりシステムの活用状況に差がある。 <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係機関がそれぞれに取組をしているが、一体的な取組には至っていない。
-----------	---

<p>今後の対応</p>	<p>1 住民参加率向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 住民参加率向上の取組を、より一層充実し継続する(回数増加など)。 ○ 従来の取組に加え、新たな取組手法を検討する(行政の会議等で説明など)。 <p>2 医療機関参加率向上のための取組(既参加医療機関の利用促進の取組を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ システム更新のタイミングで、新規加入の医療機関に課す初期費用のあり方を検討する。 ○ システム端末利用者(医療関係者)に対する説明会・研修の充実を検討する。 ○ 米ねっと事務局が、医療機関における米ねっと活用状況を把握可能となったことから、活用の少ない医療機関に事務局が個別訪問し、活用に向けた課題を聞き取り、その解消を図ることで利用促進に繋げる。 <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現在のシステムが平成31年度末に更新時期を迎えることから、米ねっと事務局では「米ねっとあり方検討委員会」を設置した。検討委員会において、システム更新に向けた検討と併せて、参加促進や利用率向上などの課題解決に向けた検討を進める。 ○ 米ねっと事務局は、キャンペーンなどの実施時には関係機関に対して積極的な広報依頼をするなど連携のための情報発信に努めるとともに、関係機関は米ねっと事務局と情報を共有した上で協力するという機運を醸成する。
--------------	--